令和４年度　文部科学省委託事業　職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
(2)．教職員の資質能力向上の推進　②教職員研修プログラムの構築

アダプティブ・ラーニング
教授法習得研修　テキスト

一般社団法人　全国専門学校教育研究会

アダプティブ・ラーニングのための ICT活用

1

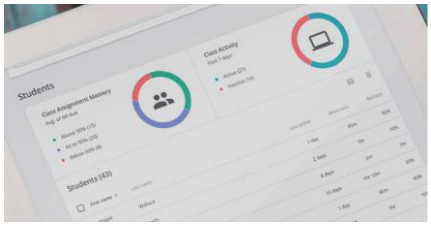
アダプティブ・ラーニングとは？

アダプティブ・ラーニング＝適応学習

テストなどで学生の学習理解度を分析

個別最適化された学習用コンテンツを A.I（人工知能）が判断・提供

苦手を潰す



参照：https://www.knewton.com/blog/product/introducing-alta/

アダプティブ・ラーニングとは？

学校や塾における
個別学習
アダプティブ・ラーニング

A.Iによる
『無学年学習』

学年を超えて、自分のペースで
学習できる

「AI×人間の先生」
全国2,000以上の
塾教室で採用されています。

atama+ホームページより
https://service.atama.plus/

Qubena ホームページ より
https://qubena.com/

Z会 Asteria ホームページ より
https://www.zkai.co.jp/z-asteria/

理解できていない部分を元に“復習箇所”を教えてくれる

3

アダプティブ・ラーニングとは？

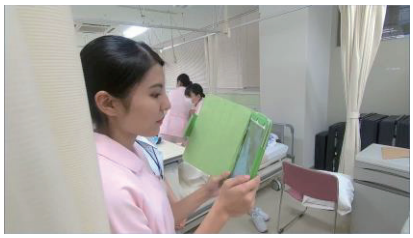
塾のA.I×アダプティブ・ラーニングが効果を出す理由

何を復習すべきか？把握でき苦手を潰せる

（自己内省が出来ない学生は
何をどうすればよいか？わからなかった）

4

アダプティブ・ラーニングとは？



専門教育でのA.Iアダプティブ・ラーニングが難しい

・テストだけではない評価方法

・０/１でジャッジできない（所作・習得度）

・資格系アダプティブラーニングの仕組みがない

・機械学習は、データ収集がキモ
　導入後すぐ効果を出せるわけではない

⇒ “人的”アダプティブ・ラーニングの必要性

5

アダプティブ・ラーニングとは？

“人的”アダプティブ・ラーニングに必要なもの

目標設定	学修成果の可視化	自己モニタリング	教員のコーチング
何のためにやるか？ どうなりたいか？ 具体的な例 を学生に設定させる	テスト レポート 動画 ・・・etc	理解・習得した部分 理解・習得していない部分 を学生に振返らせる 次のアクションを 学生に考えさせる	教える×　→　伴走〇 学生に決めさせる

“対話”に必要な学修成果の可視化

6

アダプティブ・ラーニングとは？

“人的”アダプティブ・ラーニングに必要なもの

目標設定

何のためにやるか？

どうなりたいか？

具体的な例

を学生に設定させる

学修成果の可視化

テスト

レポート

動画

・・・etc

自己モニタリング

理解・習得した部分
理解・習得していない部分

を学生に振返らせる

次のアクションを
学生に考えさせる

教員のコーチング

教える× → 伴走〇
学生に決めさせる

非同期通信が可能なICTを使って記録・共有

迅速にフィードバック

7

アダプティブ・ラーニングとは？

	確認手段	コミュニケーション
アダプティブ・ラーニング	テスト（オンライン）	A.Iが復習部分を指示
“人的”アダプティブ・ラーニング	可視化された学修成果	教員ー学生or 学生ー学生の対話で 苦手部分の克服に導く

8

アダプティブ・ラーニングとは？

	確認手段	コミュニケーション
アダプティブ・ラーニング	テスト（オンライン）	A.Iが復習部分を指示
“人的”アダプティブ・ラーニング	可視化された 学修成果	教員ー学生or 学生ー学生の対話で 苦手部分の克服に導く

9

アダプティブ・ラーニング（AL）教授法の定義

学生一人ひとりに合った学習支援

ICTを活用したログ収集と対話

ティーチングからコーチングへ

10

本研修の主題

ICTと対話を組みこんだ授業設計

対話方法を“コーチング”から学ぶ

＋先生方の指導方法と組み合わせて効果を

11

研修の流れ

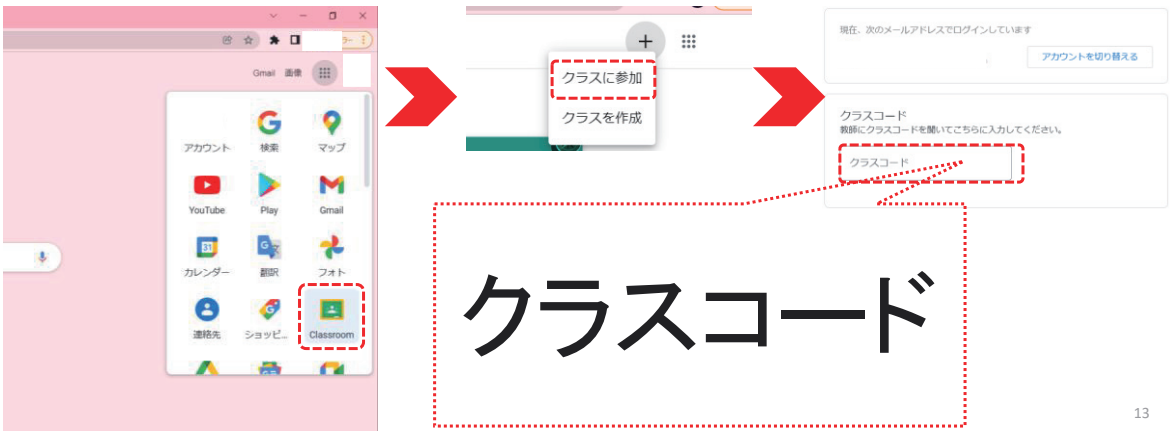
事前課題をシェア・他の先生の発表から気づきを得る：100分		
個人発表	事前課題（レポート）の発表（5分/1人）	80分
昼休み(60分)		
レクチャー（コミュニケーションの考え方を学ぶ）：40分		
講義	勇気づけコミュニケーションに必要な考え方	40分
ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例でアダプティブ・ラーニングを考える訓練と気付き）：70分		
先生の発表・質問タイム	内容確認と先生への質疑応答　1人5分×3名	15分
個人ワーク	お悩み事例を元にアダプティブ・ラーニングで設計	15分
グループワーク	グループでケーススタディをシェア　最適解をまとめる	15分
グループ発表	ケーススタディグループ発表	24分
発表・レクチャー・ワークから得た気づきを元に、事前課題を再考してみる：20分		
個人ワーク	事前課題（レポート）のブラッシュアップ	15分
グループワーク	レポートの共有 or 本日印象に残ったこと	5+5分

12

本研修で使うもの

①Google Classroom

⇒ご用意いただいたフリーGmailでログインください。



13

事前課題をシェア・他の先生の発表から気づきを得る：80分

【個人発表】

事前課題（レポート）発表

14

事前課題をシェア・他の先生の発表から気づきを得る：80分

・発表時間：5分

・事前課題シートで表現できなかった
方法や資料の詳細もお話しください。

※発表を聞く方は、クラスルームの“授業”の課題フィードバックシートの問いにご記入ください

15

事前課題をシェア・他の先生の発表から気づきを得る：80分

7つの観点

ご自身の発表以外の先生方の発表を聞いて、
下記の7問のチェック項目にプルダウンで回答ください

	チェック項目
Q1	アダプティブラーニングの適用部分は理解できたか？
Q2	（ログ収集）項目は適切であると感じたか？
Q3	（ログ収集）ICTを活用した取得方法は適切だと感じたか？
Q4	（フィードバック）タイミングは明確だったか？
Q5	（フィードバック）内容は理解したか？
Q6	（フィードバック）方法は理解したか？
Q7	実施で想定される効果は適切だと感じたか？

16

事前課題をシェア・他の先生の発表から気づきを得る：80分

総評

17

事前課題をシェア・他の先生の発表から気づきを得る：80分

所感

良いところを伸ばすことで上がる

→苦手・理解が出来ていな部分を
潰すことが　アダプティブ・ラーニング

18

良いところは褒めて認める

&

出来ていない部分を伝えて
リカバー策を伴走する

そのための勇気づけコミュニケーション

19

レクチャー（コミュニケーションの考え方を学ぶ）：30分

【講義】

勇気づけコミュニケーションに必要な考え方

20

「勇気づけコミュニケーション」理論と手法を学ぶ（実践編）

21

「勇気づけコミュニケーション」プログラム全体像

Part 1

【講義編】

動画視聴

（約60分）

考え方を理解

Part 2

【実践編】

集合研修

（約40分）

手法体験・練習

22

動画復習）「勇気づけコミュニケーション」とは？

① **自己受容**
自分を受け入れること

② **他者信頼**
まわりの人を信頼できること

③ **貢献感**
まわりの人の役に立てている
という感覚

勇気づけ
①～③を
１つでも上げること

勇気くじき
①～③を
１つでも下げること

23

動画復習）「勇気づけ」された状態　＝「リソースフル」

リソース

スキル・能力・知識

or

リソースフル

リソースを発揮できる状態

勇気づけ

リソースを発揮できない状態

勇気くじき

アンリソースフル

24

出来ていない所を指摘→改善に向かわせるには？

「聴く」「質問する」「承認する」

25

出来ていない所を指摘→改善に向かわせるには？

「聴く」　「質問する」　「承認する」

信頼関係の土台

「話を聴いてもらえた」
「理解しようとしてくれた」

26

勇気づけコミュニケーションの基本姿勢となる聴き方

・３つの聴き方

① 情報収集（自分目線）
② 判断・評価（自分目線）
③ 共感「相手の関心に関心」（相手目線）

27

【演習①】

・２人１組で役を決めパターンA・パターンBの２つの会話のセリフを
気持ちを込めて読み上げてください。（終わったら役を交代して同様に行う）

パターンA
▶生徒
「バイトが忙しくて
実技の課題をする時間がとれません」
▶先生
「ダメなあ・・そもそもどうしてそんな無計画に
バイトを入れたの！？　学生の本分は勉強でしょう？
それに授業中しっかりやっていれば短時間でも
出来る課題なんだけどねえ・・。
今後のバイトの時間はもっと減らす様に。」

パターンB
▶生徒
「バイトが忙しくて
実技の課題をする時間がとれません」
▶先生
「そうなんだね、どんな状況なの？（聴く）
あなたはどうしたらいいと思う？（聴く）
なんとか時間が作れないか一緒に考えてみようか。
これからはしっかり時間が取れる様に
来月のバイトのシフトは変更できそうかな？」

28

演習手順

【演習①】

２人１組で役を決めパターンA･パターンBの２つの会話のセリフを
気持ちを込めて読み上げてください。（終わったら役を交代して同様に行う）

パターンA
▶生徒
「バイトが忙しくて
実技の課題をする時間がとれません」
▶先生
「ダメなあ･･そもそもどうしてそんな無計画に
バイトを入れたの！？　学生の本分は勉強でしょう？
それに授業中しっかりやっていれば短時間でも
出来る課題なんだけどねえ･･。
今後のバイトの時間はもっと減らす様に。」

パターンB
▶生徒
「バイトが忙しくて
実技の課題をする時間がとれません」
▶先生
「そうなんだね、どんな状況なの？（聴く）
あなたはどうしたらいいと思う？（聴く）
なんとか時間が作れないか一緒に考えてみようか。
これからはしっかり時間が取れる様に
来月のバイトのシフトは変更できそうかな？」

8

- ２人組のブレイクアウトルーム
- 順番で「先生役」「生徒役」
- Aパターン、Bパターンの会話を実施
- 会話練習が終了後、気づきや感想を共有
- 時間は【5分】

29

出来ていない所を指摘→改善に向かわせるには？

「聴く」

信頼関係の土台

「話を聴いてもらえた」
「理解しようとしてくれた」

「質問する」

気づき、行動が起こる

「あっ！そうか！！」
「やってみよう！！」

「承認する」

30

効果的な「質問」の手順

① 今は｛目標・ゴール・最高の状態｝から、
｛何%・何点｝くらいの所にいる？ **(現状確認)**

② どうしたら（何をしたら）もっと良くなりそう？
(ゴールとのギャップ)

③ その中で、まず何からやる？**(具体的なアクション)**

31

出来ていない所を指摘→改善に向かわせるには？

「聴く」　「質問する」　「承認する」

事実(データ)

信頼関係の土台

「話を聴いてもらえた」
「理解しようとしてくれた」

気づき、行動が起こる

「あっ！そうか！！」
「やってみよう！！」

32

出来ていない所を指摘→改善に向かわせるには？

「聴く」　「質問する」　「承認する」

事実(データ)　事実(データ)　ガソリン

信頼関係の土台　**気づき、行動が起こる**　**行動継続を支援**

「話を聴いてもらえた」
「理解しようとしてくれた」

「あっ！そうか！！」
「やってみよう！！」

「見てくれている「安心感」

33

動画復習）「承認する」≠「褒める」

- **３つの承認**

①成果・結果を認める（＝褒める）

②変化・成長を認める

「課題に取り組んだね！」「締め切りに間に合う様になったね！」

③存在を認める

目を見る、挨拶する、名前を呼ぶ、あいづち、相談する　など

【参考：通りすがりに行う短時間で効果的に行える承認の例】
「課題の提出間に合ったね！」「レポートの内容、良かったよ！」
「この前は教室の片付け、ありがとう！」（感謝で貢献感を持てる）
「～先生が頑張ってるって言ってたよ！」（人づての感謝は貢献感がさらに上がる）

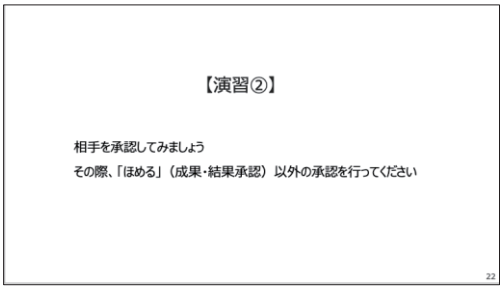
34

【演習②】

- 相手を承認してみましょう。
- その際、「ほめる」（成果・結果承認）以外の承認を行ってください。

35

演習手順



- ２人組のブレイクアウトルーム
- 順番に相手を「承認」する
- 会話練習が終了後、気づきや感想を共有
- 時間は【５分】

36

【演習②】

・実際に指導している学生を想定し、通りすがりに「承認」を伝えてみましょう。

①「課題の提出間に合ったね！」 ／「レポートの内容、良かったよ！」 など

②「この前は教室の片付け、ありがとう！」など　（感謝）

③「～先生が頑張ってるって言ってたよ！」など（人づての感謝）

37

出来ていない所を指摘→改善に向かわせるには？

「聴く」　「質問する」　「承認する」

事実(データ)　事実(データ)　ガソリン

信頼関係の土台

「話を聴いてもらえた」
「理解しようとしてくれた」

気づき、行動が起こる

「あっ！そうか！！」
「やってみよう！！」

行動継続を支援

「見てくれている「安心感」
Yes,and の伝え方

38

パターンA

▶生徒

「レポート完成しました」

▶先生

「よく頑張ったね。

1ページ目はとても良くまとまっているよ！ **Yes！**

・・ただ、これ全体の分量が少ないなあ。

ただ出すだけじゃ意味がないんだ。

もっと内容のあるものしないと！

あと３ページくらい追加して

再提出してね」 **but・・**

パターンB

▶生徒

「レポート完成しました」

▶先生

「よく頑張ったね。

1ページ目はとても良くまとまっているよ！ **Yes！**

よく工夫したね！

量がもう少しあるともっといいね。

１ページ目と同じ様にここの項目も

まとめてごらん？

あと３ページくらい追加出来たら

とても良いよ！」 **and・・**

39

【演習③】

- 以下事例を参考に、**実際に改善を伝えたい学生を想定して内容をアレンジし**、Aパターン、Bパターンにならって伝えてみましょう。（終わったら役を交代）

パターンA

▶生徒

「レポート完成しました」

▶先生

「よく頑張ったね。

1ページ目はとても良くまとまっているよ！

・・ただ、これ全体の分量が少ないなあ。

ただ出すだけじゃ意味がないんだ。

もっと内容のあるものしないと！

あと３ページくらい追加して再提出してね」

パターンB

▶生徒

「レポート完成しました」

▶先生

「よく頑張ったね。

1ページ目はとても良くまとまっているよ！

よく工夫したね！

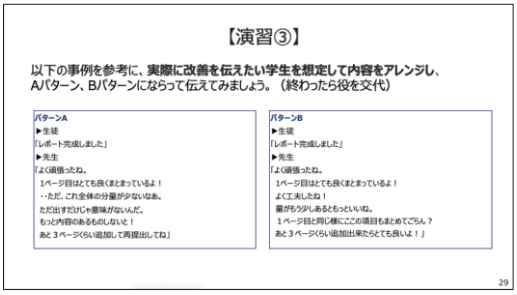
量がもう少しあるともっといいね。

１ページ目と同じ様にここの項目もまとめてごらん？

あと３ページくらい追加出来たらとても良いよ！」

40

演習手順



【演習③】

以下の事例を参考に、実際に改善を伝えたい学生を想定して内容をアレンジし、
Aパターン、Bパターンにならって伝えてみましょう。（終わったら役を交代）

パターンA	パターンB
▶生徒 「レポート完成しました」 ▶先生 「よく頑張ったね。 1ページ目はとても良くまとまっているよ！ ・ただ、これ全体の分量が少ないなあ。 ただ出すだけじゃ意味がないんだ。 もっと内容のあるものしないと！ あと３ページくらい追加して再提出してね」	▶生徒 「レポート完成しました」 ▶先生 「よく頑張ったね。 1ページ目はとても良くまとまっているよ！ よくこ来ましたね！ 量がもう少しあるともっといいね。 １ページ目と同じ様にここの項目もまとめてごらん？ あと３ページくらい追加出来たらとても良いよ！」

29

- ２人組のブレイクアウトルーム
- 順番で「先生役」「生徒役」
- Aパターン、Bパターンの会話を実施
- 会話練習が終了後、気づきや感想を共有
- 時間は【５分】

41

出来ていない所を指摘→改善に向かわせるには？

「聴く」

信頼関係の土台

「話を聴いてもらえた」
「理解しようとしてくれた」

「質問する」

事実(データ)

気づき、行動が起こる

「あっ！そうか！！」
「やってみよう！！」

「承認する」

事実(データ)

ガソリン

行動継続を支援

「見てくれている「安心感」
Yes,and の伝え方

42

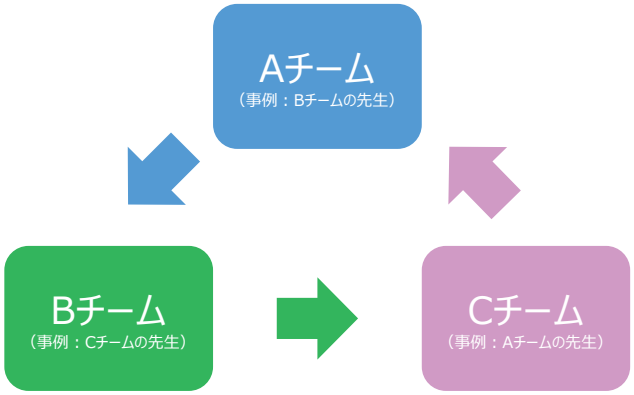
ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例で
アダプティブ・ラーニングを考える訓練と気付き）：70分

ケーススタディワーク
（他の先生のお悩み事例でアダプティブ・ラーニングを考える）

ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例でアダプティブ・ラーニングを考える）：70分		
概要とヒアリングタイム	先生の事例おさらい＆質疑応答	15分
個人ワーク	お悩み事例を元にアダプティブ・ラーニングで設計	15分
グループワーク	グループでケーススタディをシェア　最適解をまとめる	15分
グループ発表	ケーススタディグループ発表　1グループ　5分発表＋3分講評	24分

43

ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例で
アダプティブ・ラーニングを考える訓練と気付き）：70分



A		
A		
A		
A		

B		
B		
B		
B		

C		
C		
C		
C		

44

ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例で
アダプティブ・ラーニングを考える訓練と気付き）：70分

15分

概要とヒアリングタイム

45

ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例でアダプティブ・ラーニングを考える）

15分

【個人ワーク】
お悩み事例を元にしたケーススタディ

自分が担当の先生なら、どんなアダプティブ・ラーニングを試みるか？考えて設計してみてください

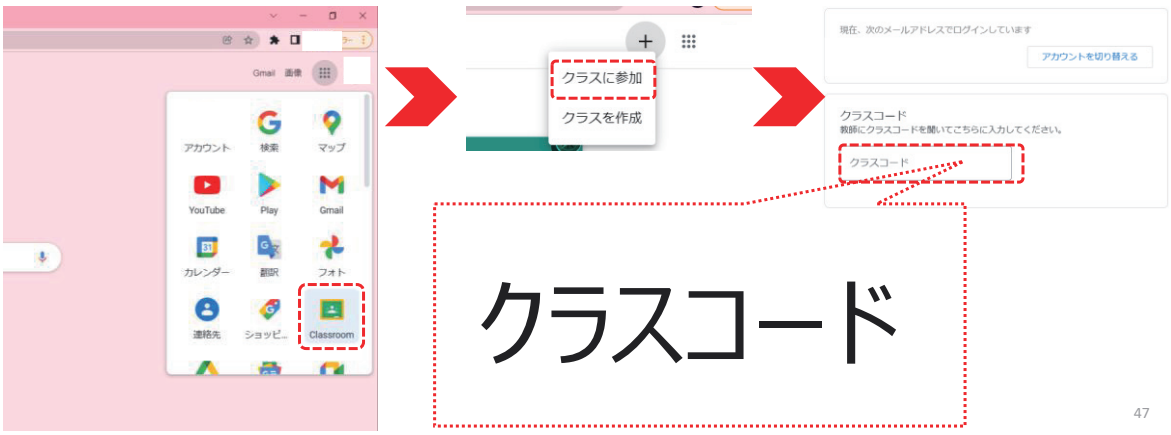
●●●●　能動学修

46

本研修で使うもの

①Google Classroom

⇒ご用意いただいたフリーGmailでログインください。



47

ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例でアダプティブ・ラーニングを考える）

15分

【グループワーク】
個人ワークをグループでシェア　最適解をまとめ

グループでワークを発表し合い、グループとしてのこのケースでの
アダプティブ・ラーニングの方略をまとめてください

48

ケーススタディワーク（他の先生のお悩み事例でアダプティブ・ラーニングを考える）

24分

【グループ発表】

代表者による
グループでまとめたアダプティブ・ラーニングの発表

発表：1グループ5分程度（その後講師FB）

49

発表・レクチャー・ワークから得た気づきを元に、事前課題を再考してみる

15分

【個人ワーク】

今日の研修での“気づき”を元に、
事前課題（レポート）をブラッシュアップ

50

発表・レクチャー・ワークから得た気づきを元に、事前課題を再考してみる

15分

【グループワーク】

今日の研修の気づきから、
どこをアップデートしたか？
今日の感想を一言ずつ共有してください

51

研修の終わりに

52

事後課題①　●●月●●日（●）

アクションプランシート
（初校：事前課題レポートのブラッシュアップしたもの）提出

①どのような指標（ログ）をとるべきか

②ITを使ったどのような手段でとるべきか（継続できそうな実現可能な手段で）

③“ルーティン”として、どのような声掛けをしていくべきか、手段と一緒に検討する

④①～③の理由・根拠

53

事後課題②　●●月●●日（●）まで

事後課題①をもとに現場実践

・講師フィードバック後のアクションプランシート（事前課題シート）最終版で実施

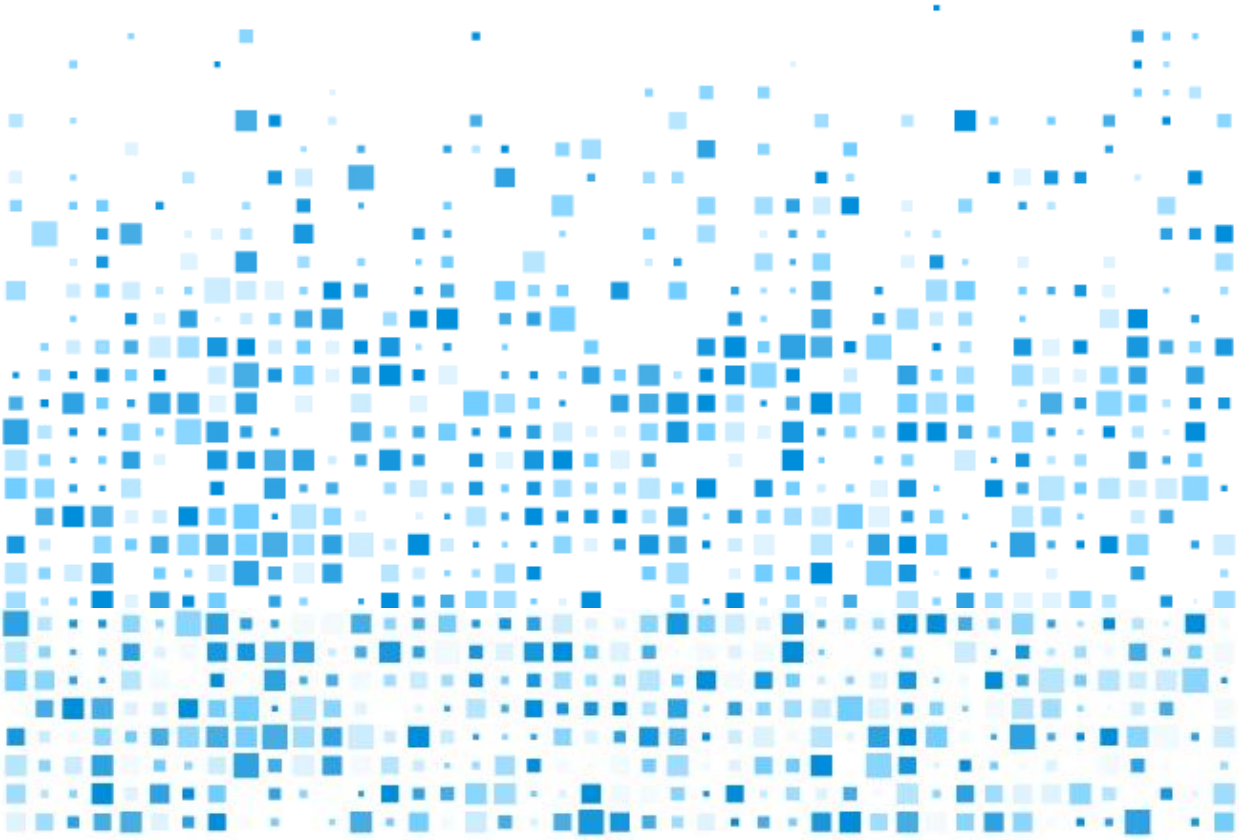
・アクションプランに則り、自身の授業科目において実践する

・上記の効果測定（アセスメント）シートを提出

54

令和４年度　文部科学省委託事業　職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
(2). 教職員の資質能力向上の推進　②教職員研修プログラムの構築

アダプティブ・ラーニング
教授法習得研修　テキスト

2023 年 3 月発行
一般社団法人　全国専門学校教育研究会
URL：http://www.zsenken.or.jp/

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。